

バスで行くあきる野市内の戦跡めぐり

- 集合出発場所と予定時間 = 9:00 五日市駅前、9:10 近藤醸造元付近、9:15 秋川駅北口前、9:20 市役所、9:25 東秋留駅上パーク付近
- コース = 列車空襲現場（五日市線鉄橋） 爆弾投下場所（油平） 海老沢寮跡（引田） 陸軍倉庫跡（引田） 五日市地域交流センターで昼食（お弁当持参）/紙芝居ビデオ「五日市線空襲」上映 横沢入の地下壕跡と戦車橋 「青い目の人形」見学（戸倉小学校） 帰途（来た順に降ろしていきます）
- お話し = 清水 浩さん（秋川の戦争を語りつぐ会会員）
中島元利さん（襲撃された五日市線列車の乗客のひとり）
唐沢慶行さん（横沢入の戦争遺跡調査報告書の主要報告者）

2005年1月22日(日) 午前9:00～午後3:00

主催 憲法9条で平和を守る あきる野9条の会



戦跡めぐりで訪ねるのは、終戦まで20日足らずの時期に、米軍の空襲によって6名の死者を出した3ヶ所と、その空襲の要因の一つと見られる陸軍倉庫跡や壕などです。市内の軍事施設はこのほかに昭和飛行機雨間分工場（資材置き場）がありましたが、資材や機材は、民家の土蔵などにも隠されていました。当時のあきる野市が空襲をほとんど受けなかったのは、多摩川を越えた旧3村が純農村地帯で、軍需工場も資材置き場程度であったからと思われるが、終戦の年になると45.2.17:五日市留原、45.4.4:西秋留村、45.7.28:東秋留村・西秋留村、45.7.30:西秋留村、45.8.10:多西村が空襲を受けました。なお、八王子大空襲は8月1日です。

1. 五日市線列車空襲現場

空襲日時：1945年（昭和20年）7月28日

場所：五日市線多摩川鉄橋（熊川、東秋留間）

列車：拝島発の3両編成、蒸気機関車は英国製スチープンソン

乗員乗客：70～80名

襲撃機：米軍艦載機編隊の内2機のP51 ムスタング

被害状況：死者3名、重軽傷者18名位（重傷者のうち1名がその後死亡）

概要：午前11時50分ごろ（12時16分発との説もある）拝島駅発五日市行きは空襲警報発令中拝島駅を出る。熊川駅を出て多摩川鉄橋に差し掛かると、P51の編隊が現れ、うち2機が急降下して襲撃。機銃掃射の銃弾を受けて即死したもの3名、重傷者数名、軽傷者不明を出す。襲撃があった後、死者と負傷者は二宮倶楽部に運ばれ、警防団や国防婦人会員らによって手当てを受けた。重傷者は他の病院へ運ばれ、死傷者のうち軍人は所属部隊がきて運び去り、2名の民間人は玉泉寺の本堂に安置された。

2. 秋川市戦没者慰霊碑

建立：19年（昭和年）月日

場所：中央公民館敷地南側、五日市街道沿い。

概要：日清戦争からアジア太平洋戦争（碑には大東亜戦争と記されている）までの旧秋川市の戦死者の名が刻まれている。アジア太平洋戦争では346名の名が刻まれている。

3. 爆弾投下場所

爆撃日時：1945年（昭和20年）7月30日

場所：西秋留駅（現秋川駅）付近の油平

襲撃機：米軍機が爆弾投下

被害状況：重傷者1名（その後死亡）

概要：サイレンが激しく鳴り出し、どこともなく飛来した敵機から西秋留駅付近の畑中に爆弾を投下、木陰に逃げ込んだ1名が運悪く被爆、内臓が飛び出し、土ぼこりをかぶり無残な姿になった。これとは別に爆弾が投下され、その不発弾が処理されたのは30年ほど経った後であった。

4. 海老沢寮跡

空襲日時：1945年（昭和20年）7月28日

場所：引田635番地、海老沢寮（学童疎開の収容施設40名が宿泊）

襲撃機：米軍艦載機のP51 ムスタングが機銃掃射

被害状況：死亡児童1名、負傷児童3名

概要：11時過ぎ、ラジオから「空襲警報発令！相模湾方面より飛来せる敵P51の編隊が東京周辺を攻撃中」。しかし一向に来襲の気配がない。空襲解除かと思っている頃、突然北東から急降下してくる敵機。海老沢寮の藁葺屋根を突きぬいた銃弾は学童疎開児童（小学5年生）の頭部を吹き飛ばした。

5. 引田の陸軍倉庫跡

場所：現在の日の出町平井三吉野井戸端・油田およびあきる野市伊奈中原

規模：3万坪の敷地に40数棟延べ面積4千坪

設置期間は 1944 年(昭和 19)前半から 1948 年(昭和 23)までの 4 年半で、陸軍立川航空廠によって、米軍による立川の陸軍航空廠等の軍事施設への空爆から、軍用航空資材を疎開させて保管・供給するため設置されたと考えられる。

6. (昼食)

紙芝居(ビデオ復刻)「五日市線空襲」約 10 分

「秋川の戦争を語りつくす会(1996 年に解散)」の代表であった永井美枝子さんが 1980 年 8 月に製作。永井美枝子さんが亡くなった後、1995 年に長男の永井榮亮さん(二宮 玉泉寺住職)がビデオにしたもので、ナレーターは永井素子さん。

7. 横沢入の地下壕と戦車橋

場所：あきる野市横沢。武蔵増戸駅と武蔵五日市駅の中間の北側にある沢部と丘陵部、面積約 65ha の地域。

地下壕：本土決戦に備えて、陸軍航空廠によって掘られた資材の格納・秘匿のための壕で 27 ヶ所(他に砂沼地区に 8 ヶ所)ある。壕は斜面を掘りこんで屋根をかぶせただけの半地下壕(天井のない掩体壕(えんたいごう))が多くあった。壕の大きさは間口 2 間・奥行 5 間半・高さ 1 間半から 2 間が多く見られた。設置されたのは 1944 年 11 月以降 1945 年 2 月、掘った部隊は増戸小学校に本部を置いた陸軍東部 64 部隊のおよそ 100 人。

戦車橋：横沢川に架かる 2 つの橋。鉄板で組まれた頑丈な戦車の車体シャーシで作られており戦車橋と呼ばれている。後の調査で、戦車ではなく試製 3t 牽引車であることが判明した。戦後、横沢の農家が生活道路の整備のために、壕にあった装備を持ち出して橋の補強に使ったといわれている。

横沢入と伊奈石：東京最後の里山といわれるほど、貴重な自然が残る地域。保全を求める市民の強い要望があり、開発が中止された。都の環境局は 1 月 5 日付けで都内初の「横沢入里山保全地域」の指定を行った。近くには「伊奈石」という粒の粗い砂岩の石切り場がある。この石は古くから加工され墓石、石段、井戸枠、石臼...など生活に利用された。伊奈石製石臼は特に有名。

(ホームページ参照：里山クラブ <http://www.satoyama-club.jp/index.html>)

8. 「青い目の人形」見学

場所：戸倉小学校

背景：青い目の人形は、昭和 2 年に、アメリカ合衆国から日本の小学校などに贈られた人形のことをいう。当時は「日米親善の象徴」だった人形が、太平洋戦争のころには「敵国の人形」として、かなりの数が処分され、約 12,000 体が贈られたのに、現存数は 300 体にも満たない数となった。終戦後、昭和の終わりまでの間に、隠されていた人形たちが発見されるたびにこの「青い目の人形」のことがクローズアップされた。

(ホームページ参照：青い目の人形資料館 <http://www.edu.ipa.go.jp/mirrors/aoime/>)

この資料は「秋川市の戦争体験を語りつくす 総集編」(1997年発行)、「横沢入の戦争遺跡調査報告」(伊奈石の会会誌「伊奈石」第4号別冊2000年発行)、秋川市遺族会誌などから引用させていただきました。

バスで行くあきる野市内の戦跡めぐり



憲法9条で平和を守る あきる野9条の会

事務局発行 2006.1.22

連絡先 あきる野市二宮 1421-4

042-558-7857 前田